

# 橋本地区自治会連合会

## 県北の交流拠点都市 =はしもと=



### 橋本地区連の地域の現況

橋本駅北口の再開発により高層集合住宅が建設され、旧国鉄跡地にも、同様な集合住宅が建設されています。

駅の南口に近い大山工業団地も産業構造の変化により、工場が撤退し再開発が進んでおり、大型小売店、高層集合住宅の建設に着手しています。

これらにより10年前の人口6万人であったのに対し、現在では7万人に達し今後も増加が見込まれます。

橋本地区自治会連合会加入の自治会数は32と変わりませんが、それにもかかわらず自治会員はそれほど増えていません。未加入者に、特に高層集合住宅の住民に対して自治会加入を呼びかけています。

現在、単位自治会活動や地域の祭典などでは、橋本・宮上では公民館から独立したスポーツ団体等の支援を受けて活動しているグループによって支えられ、親睦と連帯を深めています。相原でもこれに商店街が1枚加わり、地域の発展に寄与しています。

発展する橋本地区にあって、年1回発行の橋本地区自治連だよりでは、明るい話題や安全安心まちづくりに関して取り上げ、地域住民に情報提供をしています。

### 安全・安心まちづくり

地域住民の最大の願いは安全で安心して生活出来る環境づくりです。特に近年、社会福祉、防災に関心が高くなっています。

地区連では治安維持のため各方面に要望し、待望久しかった相模原北警察署が平成18年に発足し、犯罪・交通事故抑止に効果を上げています。

なお、防犯協会や各自治会でも防犯パトロール等を実施しています。

また、年1回の自治会長研修時に単位自治会の行事、効果的な組織運営等について情報交換を行っています。

橋本も高齢者家庭が増えてきており、地域において民生児童委員の役割は大きくなっています。情報交換の場として、各連合単位に年1回は自治会長と民生児童委員の顔を合わせる会を持つようになりま

した。

近年、各地で大震災が発生しており、戸建て住宅に住む自治会員の防災に対する意識が高まっています。単位自治会でも防災訓練を実施すると共に、自治会長研修でも災害地を視察し、その状況等会員に伝えています。

### 交通事情

朝夕のラッシュ時には駅南口が自家用車での送り迎いで混雑しています。この解消を各方面に働きかけています。また、通勤者の自転車放置は美観上と同時に、危険であると地区連で訴えていた駅前の自転車放置は、行政によって解消されました。

交通拠点である橋本は、圏央道のアクセスに伴う交通渋滞や交通事故防止のため国道16号線の橋本駅南入口交差点歩道の地下道化をはじめ、市道相原宮下線の拡幅工事等に着手しています。

また、大沢地区と橋本駅を結ぶコミュニティバスの運行も実証運行から本格運行へ移行しました。運行に対しての地元の意見も採用され、高齢者が増えつつある橋本ライフタウン住民も便利になってきています。

### 橋本商店街は今……

大型商業施設の進出によって、個人商店の経営が困難になってきています。このことは相模原市の3大祭である橋本七夕まつりの開催にも影を落としてきています。伝統の灯を消すなど、自治会、幼稚園、小、中学校に働きかけて飾りやボランティアでの協力を得ています。

### 今後の橋本地区

平成の大合併によって、旧津久井4町が相模原市と合併され、平成22年4月に相模原市は政令指定都市移行を目指しています。これに伴い区制が布かれ3区制となり、橋本に区役所が設置されます。今後ますます北部の行政、産業、交通の拠点として発展が期待されます。

### 課題として

過密化している住宅街に、一時避難場所と子ども

の運動場所、町内の親睦を図るための広場の確保  
自治会加入の促進

今後まちづくりに、自治会未加入者をどう勧誘するかです。

### 橋本3連合

#### (相原連合)

特徴的なのは商栄会と共催のふるさとまつりです。通りを歩行者天国にして神輿、山車も繰り出して近隣から多くの人を集めています。

#### (宮上連合)

ふれあい広場の完成により、ふるさとまつりを開



航空写真(昭和56年)



航空写真(平成20年)



相原地区ふるさとまつり



宮上ふれあい広場(宮上ふるさとまつり等)



JR橋本駅北口再開発



橋本七夕まつり

## 大野北地区自治会連合会

地域の特色を生かした  
まちづくりをめざして

## 地区の概要

当地区は、東西に国道16号とJR横浜線が通り、淵野辺駅、矢部駅と隣接の古淵駅を中心に開発され、比較的利便性の高い地域である。

この10年で都市基盤の整備も進み、駅周辺の改良や整備、共和嶽之内立体交差（横浜線）の開通など住民の利便も図られた。

このため、近年、横浜線沿いには、中高層マンションが数多く建設され、人口の急増がみられる。平成20年4月1日現在で、人口56,906人、24,658世帯となり、10年前に比べ、約6,300人、4,900世帯が増加した。

当地区とその周辺には、大学、図書館、博物館、宇宙科学研究本部、駅前に広がる公園など様々な施設が存在し、こうした特色ある環境を生かしたまちづくりが求められている。

また、従来からの麻布大学に加え、青山学院大学や桜美林大学が進出し、学園地区の色彩を強めるなか、まちに若者が集い、溶け込み、地域にさらなる活力を与えることが期待される。

## 自治会連合会の活動

当自治会連合会は、会長以下12名の本部役員により、交通部、防犯防災部、環境部を置き、懇談会、研修会、交通安全や防犯の広報、交通安全母の会と連携した交通安全キャンペーン等の活動を行うとともに、自治会相互の親睦と交流を図り、地域住民の福祉の向上に努めている。

また、境川に隣接している自治会では、毎年関係機関と連携して、境川の水質、生物調査を実施しながら川の浄化に取り組み、いずれは、“ほたる”の飛び交う環境を夢見ている。

平成20年4月1日現在、自治会数33、加入世帯数14,143世帯、加入率57%である。

## 大野北市民まつり

大野北市民まつりは、平成20年で31回を迎え、地域の連帯感を深め、住民相互の親睦と健康増進を図

る最大のイベントとして地域に定着している。

市民コーナーでは、チャリティーバザー等10以上のコーナーで賑わい、バザーの売上は、地区社会福祉協議会に寄付している。

親善大運動会では、自治会対抗種目で盛り上がり、昼休みには地域が育てた相模龍王山王太鼓、上矢部子ども囃子、よさこい乱舞が披露される。

## 防災訓練

当自治会連合会を構成する各自治会には、自主防災組織が設けられ、防災訓練の実施を通じて防災意識の高揚と緊急時の対応に備えている。地域の小学校、中学校等の7箇所には、災害時に避難所が設置されるため、避難所運営訓練も併せて実施している。

また、当自治会連合会から3年ごとに防災用品を各自治会に希望を取って配付し、災害時の応急体制を整えている。

## ふれあい広場の活用

平成2年に設置された「淵野辺本町ふれあい広場」は、その後も多くの人々に利用され、健康増進と交流の場として活用されている。

日頃は、ゲートボールや少年野球の練習の場に開放し、平成19年度は、延918団体19,743人が利用した。当自治会連合会でも広場を利用して、毎年交通安全ゲートボール大会を開催しており、高齢者の交通安全意識の高揚と参加者相互の親睦を図っている。

## 思い愛ネットワーク

阪神淡路大震災を教訓として平成10年10月に組織された「思い愛ネットワーク」は10年を迎え、日頃から、ひとり暮らしの高齢者や障害者の方などを見守り、いざという時に支援できるような継続的で地道な活動が地元で受け入れられ、自治会も積極的に参画している。

今後、一層高齢化が進む中、活動の継続、広がりが期待される。現在大野北地区を13班に分けて実施

しており、活動しているネットワーク員は190名、登録している利用者は141名である。

## さらなる発展に向けて

相模原市が政令指定都市への移行を目指すなか、大野北地区では、中高層マンションの建設、大学の進出等、地域は大きく変貌しつつあるが、それに対

応する環境整備の遅れが指摘されている。

当自治会連合会としては、こうした課題を解決し、さらに住みよいまちとするために行政とも協力しながら、来るべき政令指定都市に相応しい地域の特色を生かした安全で安心して暮らせる心豊かなまちを目指し活動の輪を広げていきたい。



桜美林大学、青山学院大学、高層マンション



水生生物の観察(境川)



親善大運動会



淵野辺駅南口駅前広場



防災訓練



## 大野中地区自治会連合会

## “活気のあるまち、自然環境と調和のとれたまち”をめざして



## 大野中地区の概要

境川沿いの斜面緑地や大沼・大野台周辺のこもれびの森など貴重な緑が残る地区であるとともに昭和61年の古淵駅の開業によって急速に都市化が進んだ地区であります。

現在、地区の人口は62,389人（24,917世帯）。自治会加入世帯は17,651世帯（29自治会）。自治会加入率は約71%となっています。

## この10年の主なできごと

## こもれびの橋設置

平成12年12月、国道16号と市道古淵麻溝台交差点上をX字型にまたぐ歩道橋が設置されました。人も自転車も楽に昇降できるよう四か所にはエレベーターが設置され、大野台・大沼地域と古淵地域を結ぶ橋となり、また地域を象徴する橋でもあります。

## 相模原よさこいRANBU!

毎年9月、古淵駅周辺ではよさこいまつりが行われます。10万人を越す人々が音楽と踊りに酔いしれます。地域の活性化と地域住民の連帯が目的のこのまつりも今年で6年目、地区のまつりとしても定着してきました。各自治会は企画準備段階から実行委員会に加わり、当日は110人以上の自治会員が駐車場係などの仕事を分担します。また、各自治会が特色のある模擬店を出店し、まつりを盛り上げます。

## 古淵鵜野森公園の整備

古淵鵜野森公園はクヌギやコナラなどの樹木が混生する地区住民の憩いの場です。境川の斜面緑地を現状のまま残し、四季折々の木々や草花が楽しめる公園をつくるため、古淵鵜野森地域の11の自治会長と団体代表者で組織された公園検討会議が整備計画案を作成し、平成17年地区公園として整備が始まりました。地区住民と市が協働で整備した面積約5.3ヘクタールの公園です。

## 大野中地区ふるさとまつりの開催

ふるさとまつりは当連合会最大のイベントです。昭和53年に始まり、大沼公民館が開館すると大野中と大沼の二地区で開催されるようになりました。平成17年参加者の減少とともに再度、大野中地区全体で一つのまつりを創り上げようという気運が高まり、地区内を一本化し会場は大沼、大野台、大野中の三地区輪番で開催することが自治会長会議で決定し現在に至ります。毎年約8千人が参加するまつりになっています。

## 総合防災訓練・発災対応型訓練の実施

平成19年9月2日、大野小学校を会場に震度6強の災害を想定した市総合防災訓練が実施されました。全自治会から合計510名が参加し初期消火訓練、炊き出し訓練、仮設トイレ組立訓練などを行いました。単位自主防災隊における日常訓練の必要性と連合自主防災隊として地区全体を連携させた訓練の必要性を実感しました。

## 安全安心のまちづくり

安心して平穩に生活できるまちは地区住民の願いです。自転車盗や空き巣はなかなか無くなりません。児童をねらった犯罪も心配です。当地区では地区防犯協会と協力し単位自治会でのパトロールを強化しています。児童の登下校時には「愛情一番見守隊」、ペットと散歩しながら「わんわんパトロール」、ウォーキングをしながら「挨拶パトロール」など地域住民の地道な実践と連携で犯罪予防の啓発活動を実施しています。

## 朝市始まる

平成20年7月13日、「おおのなかいち」と名付けた朝市が古淵南公園で始まりました。各商店会と当連合会で組織した大野中朝市倶楽部が主催です。安全で新鮮な物を食べたいという地域住民と地場で採れる新鮮で良い品物を地元を提供したいという生産

者の「地産地消」の実践の場です。野菜、肉、キムチ、梅干、うどん、豆腐、菓子など20以上の店が出店し、毎月第2日曜日に開催されます。

## 自治会の魅力づくりと加入強化の必要性

自治会未加入世帯の多くは、地域との関係が希薄な集合住宅や単身の世帯が多い状況です。未加入世

帯を減らすには加入したいと思って頂く自治会であることが大切です。今後、マンネリ化した行事への工夫、生活に密着した行事への取り組みや組織面の工夫など魅力ある自治会に向けての取り組みが必要です。また、集合住宅対策としてはマンション建設時からの加入強化も必要であると考えます。



こもれびの橋



相模原よさこいRANBU!



古淵鵜野森公園(多目的グラウンド)



大野中地区ふるさとまつり



総合防災訓練



おおのなかいち

## 大野南地区自治会連合会

『心地よい』と感じるまち  
を目指して

## 相模大野駅西側地区再開発事業

空店舗や老朽化した建物が多く、防災上の危険も懸念される相模大野駅西側地区は、平成2年に整備構想が示されたことにより、平成24年の完成を目指して、再開発事業が進行している。

相模大野駅周辺は、平成2年に市内で初めての都市型百貨店である「伊勢丹」が開業し、平成8年には駅ビル「ステーションスクエア」が完成し、一大商業地区になっている。また、この二つの商業施設を結ぶ街路は、「コリドー」と称され、街のにぎわいを演出している。

駅の西側地区も、かつては、現在の「コリドー」に負けないにぎわいがあったが、まちの発展の礎としての役目を終え、再開発事業により、新たなまちづくりの指標となっている。

## 大野南地域まちづくり会議に参加して

新たなまちづくりに向けて、平成20年5月に「大野南地域まちづくり提言書」を策定し、市長に提言した。

提言は、平成22年4月からスタートする「新都市計画マスタープラン」に反映される。この会議は地区自治会連合会や地区社会福祉協議会等地域の団体や商店会の代表等が名を連ね、地域の課題を整理し、将来像を模索するものであった。それぞれの分野からの意見を集約し、重点提言をまとめたが、その中に「まちのにぎわいを創り出す商業の振興」が含まれている。

## 心地よいにぎわいのまちへ

小田急線相模大野駅を中心に、国道16号線と県道51号線（行幸道路）が交差し、相模原市の「南の玄関口」と言われる相模大野は今も昔も商業の振興が盛んである。

地の利に恵まれた当地は、多くの人の行きかう場所であるため、安全で安心なまちであることがことのほか求められている。放置自転車やごみの散乱防

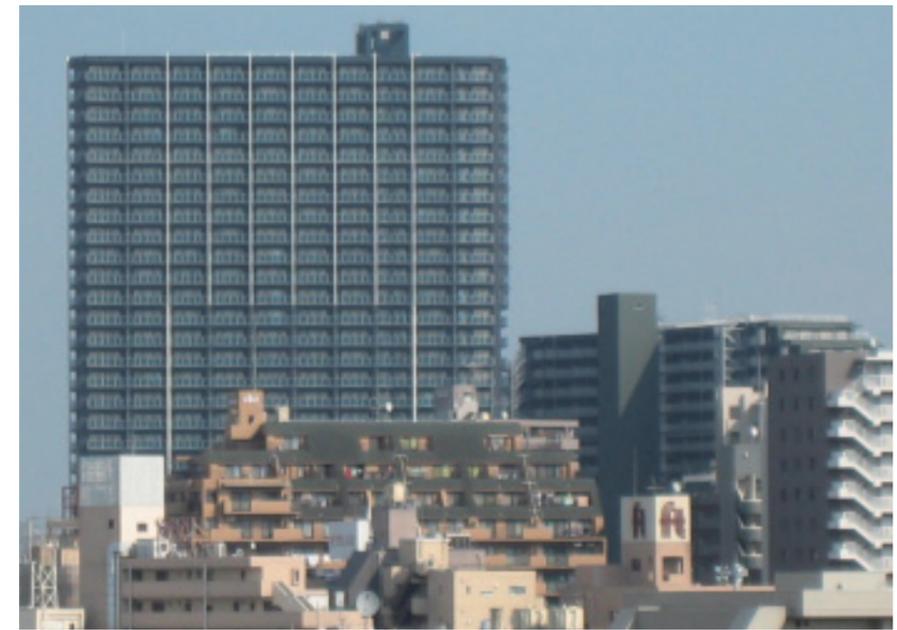
止等の地域の課題を克服し、まちのバリアフリー化、電線類の地中化の推進等、さらに快適なまちづくりを目指すための課題はあるが、地域住民が積極的に関わることにより、人間味の感じられる「心地よい」にぎわいのあるまちにしたいと思っている。

## 自治会未加入世帯の増加

現在、大野南地区の自治会加入率は、55.1%である。中高層マンションが多く、住民の異動が激しいために、郷土意識の醸成が難しい地域である。当地区自治会連合会では、2つの公民館区でそれぞれ「ふるさとまつり」を開催するなど、郷土意識の醸成に努めているが、さらに、生活の安全・安心を向上するために、防犯灯の設置、交通安全キャンペーン、地域ぐるみの防災訓練等の事業を積極的に実施して、自治会活動への理解を求めていきたい。

## 市自治会連合会の40周年を迎えるにあたって

平成22年4月の政令市移行により、相模原市は大きく変容していくことと思われる。地域の団体である自治会にも何らかの影響が考えられるところである。市自治会連合会は、自らの存在意義を深く自覚して、行政と協調しつつ、まちづくりの主体としての独自のビジョンを構築していく必要がある。これまでもそうであったように、これからも良きパートナーとして相模原市の発展に寄与していきたい。



増え続ける高層マンション



自治会が結集した総合防災訓練

郷土意識を高めるふるさとまつり  
(大野南ふるさとまつり)お洒落な街並み  
(相模大野駅周辺の行幸道路)昔は、鶴が舞っていました。  
(相模大野駅南口のモニュメント)

## 大沢地区自治会連合会

連帯と信頼そして  
自然と調和したまち「大沢」

## 大沢の成り立ち

明治22年、大島村・上九沢村・下九沢村の三か村が町村制により合併し、大島と九沢の双方から一文字をとり大沢村と命名されました。同年4月の大沢村誕生のころの、世帯数は約600世帯、人口は約3,500人。昭和21年1月に大沢青年団が結成され、郷土再建の運動が進められ、学校教育のための施設の充実・住民相互教育のための施設づくりを決議。

昭和24年に相模原で最初の町立公民館として大沢公民館（上溝も同時）が開設。その後大沢出張所が併設。一面の桑畑も今では3万人以上が生活する地域へと変わり、高層のマンションや市営団地ができ生活のスタイルも変貌しました。そして平成19年3月に大沢公民館・出張所の改修増築工事が完了し近代的な施設となり、住民によるコミュニティ活動の活性化が図られています。

## 大沢地域の施設の紹介

大沢には公園（自然の村公園・相模原北公園）、野外活動や運動施設（北総合体育館・北の丘センター）、子どもや大人の宿泊施設（ピレッジ若あゆ・相模川清流の里）、福祉施設（溪松園・市身体障害者デイサービスセンター）、自然環境施設（県内水面試験場）等、自然や人のふれあいを大切にしたい施設が多くあります。

## 大沢の伝統芸能と史跡の保存

上大島の諏訪明神と塚場の御嶽神社の獅子舞（県・市の無形文化財）の保存会による後継者育成、史跡ヤツボ（有形文化財）等の地域老人会による清掃作業など、今後更なる保存活動を進めていきます。

## 大沢地区自治連の過去の取り組み

- ・「秋まつり（芸能大会・レクリエーション大会）」での地域のふれあい。
- ・自治会加入促進活動は、毎年10月の実施。
- ・大島キャンプ場を中心とした「大沢地区さくらま

つり」を毎年春の桜の時期に実施。古民家園での芸能発表。

- ・相模原市の資源回収モデル地区への取り組みは、本格資源回収に向けて基礎を作りました。
- ・「ラジオ体操のまち・大沢」への取り組み。
- ・高齢者敬老会を地区社協から各自治会に移行し、工夫を凝らした内容で実施され、参加者も増加しています。

## 今後の課題と取り組み

- ・自治会加入促進への取り組み。
- ・防災対策への意識向上と避難所運営体制の確立。
- ・災害弱者支援体制の確立。
- ・安全・安心への取り組み。
- ・豊富な自然を生かした地域活性化への取り組み。
- ・少子高齢化を踏まえた福祉環境の整備。
- ・コミュニティの活性化と、諸団体との連携への取り組み。
- ・コミュニティバス継続運行への取り組み。

大沢地域を取り巻く環境は、さがみ縦貫道(仮称)城山インターチェンジ開通により大きく変貌することは必至です。交通手段の不足による不便地域からの脱却と、自然を有する穏やかな地域に包まれた人と人のふれあいを大切に、自治会の輪を拡充してまいります。

さらに大沢の今後の自治会活動は、難積する課題を解決し、住民主体のまちづくりを目指し、会員相互の絆と親睦を深めるとともに、未加入世帯の加入促進を図ってまいります。



せせらぎ号(相模原市コミュニティバス)  
(橋本駅南口～相模川自然の村 運行)



増改築された公民館・出張所



大沢地区防災訓練



地域みんなで健康づくり ～ラジオ体操のまち・大沢～



大沢地区さくらまつり

# 田名地区自治会連合会

## 古さと新しさが 調和したまち「田名」

### 交通インフラの充実強化をめざして



#### 地区の概要

田名地区は豊かな自然に恵まれ、旧市域の西部に位置し、面積は約9.67 k m<sup>2</sup>、相模川を挟み厚木市と愛川町に面しています。

自治会数は、15自治会です。平成20年4月1日現在の管内人口は30,185人、世帯は10,786世帯、自治会加入世帯数は7,611世帯（加入率70.57%）です。

「泳げ鯉のぼり相模川」や「相模原納涼花火大会」への参加・協力をはじめ、地区自治連主催のふるさとまつり、チャリティーゴルフ大会の開催、単位自治会ごとの夏祭りや盆踊り、敬老会の実施など、田名地区は地域の活動が活発です。

#### 地区内の主な出来事（10年のあゆみ）

##### 消防署田名分署移転・開設

昭和44年に田名工業団地入口に開設された消防署の田名分署が、平成13年に建て直しに伴い市立田名小学校前に移転・開設されました。

##### 田名こどもセンター開館

「田名こどもセンター」が平成13年に大杉公園前に開館し、連日元気な子どもたちで賑わっています。

##### 田名のあすを拓く委員会設置

平成15年に地域の住民の連携を深め、より住みよいまちづくりを推進することを目的に、地区自治連の下に「特別委員会・田名のあすを拓く委員会」を設置しました。

##### 上田名バスターミナルの整備

上田名交差点脇の一画に、バス乗り継ぎ整備の一環としてバスターミナルの整備が計画されており、平成23年度当初の供用開始を目指して取組が行われています。

##### 青色回転灯パトロール車の巡回

平成18年5月、犯罪のない明るい安全な街を実現するため田名地区防犯協会を設立し、その年の10月からは田名専属の青色回転灯パトロール車を配備して、管内の巡回を開始しました。同協会は、青パトによる巡回、各種防犯キャンペーン等の広報活動などを活発に実施し、平成19年2月にはその功績に対して、神奈

川県警察本部長から「防犯功労賞」の表彰を受けています。

##### みんなでつくる田名の会設立

地域の課題を地域の団体・組織・住民が協議し、解決に向けて活動するために、市の地域パートナーシップモデル事業の第1号として、平成17年に「みんなでつくる田名の会（通称：みんな）」が設立されました。

##### 史跡田名向原遺跡公園開園

日本で最古の住居跡と考えられる遺構が発見された田名向原遺跡が、平成19年3月に史跡田名向原遺跡公園として開園しました。

##### 田名地区公共交通整備促進協議会設立

公共交通網の整備は、田名地区の発展のためには急務です。

平成16年に交通インフラの充実強化を目指し、公共交通網の整備促進に向けて「17,170名」の署名を集め、田名の総意として市や関係機関に要望書を提出しました。

平成19年には、この活動を長期にわたり取り組んでいくための組織である「田名地区公共交通整備促進協議会」を設立し、その後継続した活動を続けています。

##### 田名地区景観植物植栽推進委員会設立

平成20年3月、地域環境の維持・向上に取り組み、「心豊かな住みよいまちづくり」に寄与することを目的に、田名地区景観植物植栽推進委員会を設立しました。年間を通して、県道愛川相模原線植栽マスの管理をはじめ、相模川の望地河原の休耕田を借用したコスモスや菜の花の植栽など、活発に活動しています。

##### 田名公民館・出張所の大規模改修工事完了

田名公民館・出張所が、建物の老朽化に伴い平成20年に増築及び改修されました。

建物の延床面積は、1,577m<sup>2</sup>となり、大会議室の収容人数が約1.8倍の200人と増えたほか、工作室の新設、出張所、図書室の拡張などの全館改修で、地域の拠点にふさわしい施設・設備の充実が図られました。

##### 田名公民館表彰

昭和26年12月に創立されて以来、地域の活動拠点である田名公民館が、事業内容・方法等に工夫を凝らし

地域住民の学習活動に大きく貢献しているとして、平成20年10月に文部科学大臣から「全国優良公民館」として表彰されました。

#### これからの取組

豊かな自然に恵まれ、伝統文化や地域行事が溢れ、工業系の産業が集積する田名地区は人口の増加が続いており、また市内でも年少人口の比率が高いなど、今後さらに発展が見込まれます。

しかし、公共交通網の未整備は、地域の発展の障害

要因となり、住民の日常生活への影響は少なくありません。

地区自治連では、喫緊の課題である交通インフラの充実強化に向け、粘り強く活動を続けていきます。

また、地域づくりのための大きな課題としての、自治会への加入促進と地域活動の活性化、安全・安心のまちづくりと高齢社会への取組、相模川を拠点とした「やすらぎのまちづくり」の推進と親水公園の整備等による観光の振興、そして住環境と農業と工業との調和のある土地利用計画の策定などに対して、地域が一丸となって取り組んでいきます。



望地河原のコスモス（田名地区景観植物植栽推進委員会）



田名地区公共交通整備促進協議会設立



田名の安全を守る青パト



史跡田名向原遺跡公園



新しくなった田名公民館・出張所